はじめに

原子力の開発に必要な核データの収集整理と測定に関する情報の交換の問題を討議し，かつ可能な範囲で実行にうつすためにシグマ委員会が呱々の声をあげたのは昭和３８年２月であつて，それから既に満３年が経過した。この間，一方では国内の諸機関及び研究者諸氏の支援と協力により，着々と核データ・センター態勢の確立への途がひらかれつゝあるが，他方 IAEA や ENEA (European Nuclear Energy Agency, OECD) の核データに関するプロジェクトとの相互関係も日ごとに密接度を増してきている現状である。

特に IAEA や ENEA を通じての原子力関係の核データに関する資料の交換，国際会議などについての情報入手はシグマ委員会が日本の窓口となつて行なつているが，シグマ委員会委員以外の国内研究者の方々には，案外これらの状況が知られていないように思われる。入手された資料，情報等を広く関係のある研究者の方々にお知らせして，それ等をすこしでもお役に立つようにしようというのがこの〃ニュース〃が企図された目的である。

この〃ニュース〃は当面年四回くらいの発行を考えている。本委員会にはまだこのようなものを刊行するだけの態勢が具つてはいないが，しかしながら広報活動をなおざりにすることは許されないとの考えの下にあえて一年間の刊行実験を行つてみることに踏切つた次第で，大方の遠慮ない御批判，御支援を期待する。

シグマ委員会は外国に対しては Japanese Nutlear Data Committee という名前を用いている。国内の場合には原子力関係の核データという意味をはつきりさせるために「シグマ」という名前を採つたが，IAEA をはじめアメリカ合衆国以外の多くの国々では Nuclear Data Committee という名称を用いているので大勢に順応したわけである。

本誌の名称は Japanese Nuclear Data Committee の頭文字をならべたものであるが，内容は委員会のニュースではなく〃核データ〃に関するニュースを対象にしている。したがつて〃核データセンター〃が具体的に発足し，本誌が Japanese Nuclear Data Centre ニュースと読みかえられる日の近いことが望まれる。

１９６６年３月

日本原子力研究所
日本原子力学会 } シグマ委員会